

〈やさしい日本語〉と 多文化共生のまちづくり

一橋大学国際教育交流センター教授
庵 功雄

isaoiori@courante.plala.or.jp

<http://www12.plala.or.jp/isaoiori/>

1. はじめにー日本社会で急増する外国人ー

- 日本に住む外国人の増加
- コンビニ、新聞配達. . .
- <https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/dependence-on-foreign-workers/> (日本経済新聞電子版2018.8.2。外国人依存度、業種・都道府県ランキング)

1. 日本が「移民」を受け入れるとすれば —「ことば」から考える—

- 在住外国人の増加
- (背景) 人材移動のグローバル化、
- 日本の子高齡化、
- 生産年齢人口(15~64歳)の減少
- →海外に成功の場を求める外国人と日本社会の要請の方向性が一致
- 「我々は労働力を呼んだが、やってきたのは人間だった」(スイスの作家マックス・フリッシュ)
- →この人たちが日本で自己実現できる可能性を保証する必要性
- →〈やさしい日本語〉を用いてこの問題に取り組む

2. マイノリティのための〈やさしい日本語〉と マジョリティにとっての〈やさしい日本語〉

減災のための「やさしい日本語」

・阪神淡路大震災(1995)

→日本語も英語も不自由な外国人が二重に被災

→災害時の日本語による情報提供

→「やさしい日本語」

2. マイノリティのための〈やさしい日本語〉と マジョリティにとっての〈やさしい日本語〉

減災のための「やさしい日本語」

A <原文>

けさ5時46分ごろ、兵庫県の淡路島付近を震源とするマグニチュード7.2の直下型の大きな地震があり、神戸と洲本で震度6を記録するなど、近畿地方を中心に広い範囲で、強い揺れに見舞われました。

B <言い換え文>

今日、朝、5時46分ごろ、兵庫、大阪、などで、とても大きい、強い地震がありました。地震の中心は、兵庫県の淡路島の近くです。地震の強さは、神戸市、洲本市で、震度が6でした。

2. マイノリティのための〈やさしい日本語〉と マジョリティにとっての〈やさしい日本語〉

〈やさしい日本語〉の誕生

- ・外国人に対する情報提供にとっては、災害時だけではなく、平時も重要

→平時における外国人に対する情報提供

→〈やさしい日本語〉

2. マイノリティのための〈やさしい日本語〉と マジョリティにとっての〈やさしい日本語〉

〈やさしい日本語〉研究の発展

1. 在住外国人(成人)対象の情報提供
 2. 外国にルーツを持つ子どもたちの日本語教育
ろう児に対する日本語教育
- マイノリティ(少数者)のための〈やさしい日本語〉
3. 日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉
 4. 日本語表現にとっての〈やさしい日本語〉
- マジョリティ(多数派)にとっての〈やさしい日本語〉

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- マイノリティに対する言語保障としての〈やさしい日本語〉
- 1. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
 - →主に成人対象
- 2. バイパスとしての〈やさしい日本語〉
 - →外国にルーツを持つ子どもたち、ろう児対象

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- 新来の定住外国人にとって最も重要なこと
- →日本を「居場所」だと感じられること
- →母語で言えることを日本語でも言えるようになること
(イ2013)

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- 1. 初期日本語教育の公的保障のための〈やさしい日本語〉
- 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
- 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- 1. 初期日本語教育の公的保障のための〈やさしい日本語〉
- 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
- 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- 1. 初期日本語教育の公的保障のための〈やさしい日本語〉
- 定住外国人が日本で生きていくのに必要な最低限の日本語教育を、公費により、プロの手で行うことが必要
- こうした初期日本語教育の公的保障の対象となる日本語を、本研究における〈やさしい日本語〉と定義する

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
 - 1. 初期日本語教育の公的保障のための〈やさしい日本語〉
 - 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
 - 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
- 英語は共通言語にならない(岩田2010、庵2016)

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉

〈これまで〉

外国人側に一方的に日本語習得を要求

〈これから〉

日本語母語話者〈受け入れ側の日本人〉

↓ コード(文法、語彙)の制限、
日本語から日本語への翻訳

〈やさしい日本語〉(地域社会における共通言語)

↑ ミニマムの文法(Step1, 2)と語彙の習得

日本語ゼロビギナー〈生活者としての外国人〉

→実現するか否かは日本語母語話者の意識次第

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
 - 1. 初期日本語教育の公的保障のための〈やさしい日本語〉
 - 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
 - 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉
- 学校型日本語教育と地域型日本語教育(尾崎2004)
- 「学校型」における「初級」の目安は300時間
- 「地域型」の標準は週2時間→「初級」を3年？

	学校型	地域型
参加者間の関係	教師－学生(契約関係)	学び合い(cf. 庵2013)
外国人のビザ	留学ビザ	就労ビザ(家族滞在ビザ)
初級の標準時間数	300時間(旧JLPT3級) 集中予備教育	週2時間

→地域型日本語教育の実情に合った「初級」(「地域型初級」)の
必要性

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

居場所作りのための〈やさしい日本語〉

- 学校型日本語教育の「初級」は、地域型日本語教育にとっては「重い」
- 地域型の実情に合った「初級」(「地域型初級」)を考える必要がある
- 「母語でなら言えることを日本語でも言える」ようにする
- ←外国人が少ない材料で能動的に自分が言いたいことを日本語で表現できることを目指す(イ2013)
- →**ミニマムの文法**としてのStep1, Step2(cf. 庵2015a)
- →『**にほんごこれだけ！1, 2**』

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

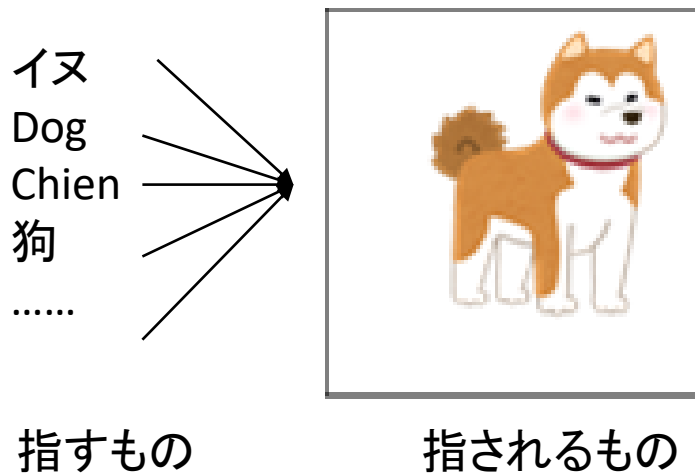
- **マイノリティに対する言語保障としての〈やさしい日本語〉**
- 1. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
 - →主に成人対象
- **2. バイパスとしての〈やさしい日本語〉**
- →外国にルーツを持つ子どもたち、ろう児対象

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- **バイパスとしての〈やさしい日本語〉**
- 外国にルーツを持つ子どもたちに対する日本語教育
- →「まっとうに努力すれば、日本人の子どもたちと対等に競争できる」ようになること(社会的流動性の保障)を目指す
- →このことを抜きに移民の受け入れが進むと、日本国内に「階層の固定化」が生じ、潜在的な社会的不安定要因になる

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- バイパスとしての〈やさしい日本語〉
- 漢字の問題
- 言語(記号)の恣意性(ソシユール)



3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- バイパスとしての〈やさしい日本語〉
- 漢字の問題
- 〈日本人の子どもたち〉
- 「いぬ、いえ、がっこう」(発音)と意味(指示対象)の関係はわかっている、ひらがなでも書ける
- →学習するのは漢字で書くことだけ
- 〈外国にルーツを持つ子どもたち〉
- 「いぬ、いえ、がっこう」(発音)と意味(指示対象)の関係から学ぶ必要がある
- →日本の漢字には音読みと訓読みがあるのが普通

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- **バイパスとしての〈やさしい日本語〉**
- 外国にルーツを持つ子どもたちに対する日本語教育
- 漢字の問題
- 〈外国にルーツを持つ子どもたち〉
- 「いぬ、いえ、がっこう」(発音)と意味(指示対象)の関係から学ぶ必要がある
- →小学校で習得すべき漢字は約1000字
- ←アラビア文字は28字
- →日本の漢字には音読みと訓読みがあるのが普通
- →ごく短期間で身につけなければならない
- ←高校受験(高校進学率約30%?)
- →新しい漢字シラバスが必要(cf. 庵・早川2017)

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- **バイパスとしての〈やさしい日本語〉**
- BICS(日常言語)とCALP(学習言語)(バトラー2012)
- 指示詞(コソア)の2つの用法
- (2) その本、取って。(現場指示)
- (3) 先日友人から本をもらった。その本は哲学関係のものである。(文脈指示)

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- **バイパスとしての〈やさしい日本語〉**

- BICS(日常言語)とCALP(学習言語)(バトラー2012)
- (2) その本、取って。(現場指示)
- →指示対象の特定に必要なのは、指示詞(「その」)ではなく、「指さし」や「視線」
- →**BICS(Basic Interpersonal Communication Skills)**
- (3) 先日友人から本をもらった。その本は哲学関係のものである。(文脈指示)
- →指示対象の特定は、指示詞(「その」)の記号的性質を理解することが必要
- →**CALP(Cognitive Academic Language Proficiency)**

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- バイパスとしての〈やさしい日本語〉
- 外国にルーツを持つ子どもたちに対する日本語教育
- 彼／彼女たちと日本人の子どもたちとの間には、スタート時点で大きな差がある
- 日常言語(BICS)は習得できるが、学習言語(CALP)は習得できない(バトラー2011)という問題もある
- →とりあえず上級まで早く行ける「バイパス」が必要
- →新しい文法シラバス(庵2015b)
- →バイパスとしての〈やさしい日本語〉

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

- バイパスとしての〈やさしい日本語〉
- 同様のシラバスはろう児に対する日本語教育においても必要（庵2016、Iori & Oka2017、安東・岡・庵2019）

2. マイノリティのための〈やさしい日本語〉と マジョリティにとっての〈やさしい日本語〉

〈やさしい日本語〉研究の発展

1. 在住外国人(成人)対象の情報提供
2. 外国にルーツを持つ子どもたちの日本語教育
ろう児に対する日本語教育
→マイノリティ(少数者)のための〈やさしい日本語〉
3. 日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉
4. 日本語表現にとっての〈やさしい日本語〉
→マジョリティにとっての〈やさしい日本語〉

4. マジョリティにとっての〈やさしい日本語〉

- **日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉**
- 失語症：言語学で古くから研究されている分野
- ←失語症の患者を観察することで脳のどの部位でどのような言語機能が司られているかがわかる
- →有標な存在が真理を照らし出す（健常者（無標）のデータから同様の結果を導くことはできない）
- →「外国人の日本語」も同様に「有標」な（≡特別な）存在であるために、同様の価値を持つ

4. マジヨリティにとっての〈やさしい日本語〉

- **日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉**
- (日本語)母語話者が日本語(母語)を用いて行う上で最も重要な言語活動:
 - 自分だけが知っていることを相手に伝えて相手を自分の意見に同意させる
 - 論文、口頭発表(大学)
 - 就活、(各種)プレゼン(企業)
 - 自治会の交渉(一般社会)
- →外国人を相手にロールプレイを行うと、外国人の日本語が「有標」であるために、外国人との対話場面(接触場面)が真正さ(authenticity)を持つ
- →**日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉**

4. マジORITYティにとっての〈やさしい日本語〉

- 「公平な耳」の必要性

- (4) 日本の大手自動車会社の工場長がタイからの技術研修生に会った時、「**わたし...じどうチャ...**」などと話しているのを聞いて、引率の日本人に、「この人達はほんとうに仕事ができるのか」と心配そうに言ったというが、これなどは、「わたし」や「じどうチャ」などという発音の仕方が、日本語では幼児の話し方に似ているところから、勝手に人格や能力の判断にまで結び付けて出された反応であったとまずは解釈できよう。(土岐1994)
- →音の区切り目の違い(←言語の恣意性)
- →タイ語では「し」と「ち」を区別しない一方、日本語にはその区別がある
- →それだけのことだが、それが差別につながっている

4. マジヨリティにとっての〈やさしい日本語〉

- 「公平な耳」の必要性
- 音の区切り目の違い(←言語の恣意性)
- →タイ語では「し」と「ち」を区別しない一方、日本語にはその区別がある
- →日本語には[si]と[ʃi]の区別がない
- →「シーシーズアシー」と”She sees a sea.”
- →「方言」や「外国人の日本語」を等しく日本語のバリエーションとして聞ける「公平な耳」(土岐1994)を持つことが重要

5. マインドとしての〈やさしい日本語〉

• 「技術」より重要なこと

- 〈やさしい日本語〉はマイノリティのためのものであるという認識が強く、ともすれば、〈やさしい日本語〉は書き換えや言い換えの「技術」に関する問題と認識されがち
- 公的文書やNews Web Easyの書き換えなどをプロが行う場合には、一定の制約の下で書き換えることが重要
- 在住外国人と一般の日本語母語話者の間の関係における〈やさしい日本語〉ではこうした技術的な面を意識する必要はない
- 重要なのは、相手が何を言おうとしているのかを理解し、自分が相手に何を伝えたいのかを常に意識しながら、日本語表現を書き換えたり言い換えたりすること
- そうしたことを意識しながら日本語表現を行うことが、その人自身の日本語のコミュニケーション能力を高めることにつながる

5. マインドとしての〈やさしい日本語〉

- 「お互いさま」の気持ち
- 〈やさしい日本語〉にとって重要なのは、「技術」ではなく、考え方(マインド)
- 「マインド」を一言で言うと、「お互いさま」の気持ち
- 「わたし」「じどうちゃ」といった発音を笑ってしまう気持ちが日本語母語話者には潜在的に存在する
- それは、[si]と[ji]の区別ができないことを英語母語話者に笑われるのと同じ
- 「わたし」という発音を笑いそうになったときに、もし、一歩立ち止まって、「自分が同じことをされたらどう感じるだろうか」と考えることができれば、おそらく笑うことはない
- →「多文化共生」の第一歩

5. マインドとしての〈やさしい日本語〉

- 「バリアフリー」は誰のため
- **バリアフリー**: 全ての人々が社会に参加できるための手段 (あべ2015)
- →「障害者」というマイノリティのためのものと考えられがちで、そのために、「バリアフリー」のための予算が付きにくいといった事例も見られる
- →人はけがをしたり年をとったりすれば移動困難者になる
- →「健常者」と「障害者」は一時的な違いに過ぎず、だれもが「障害者」になる可能性を持っている
- →「バリアフリー」は「マイノリティであるだれか」のためのものではなく、「**いつかマイノリティになるかもしれない私**」のために必要なものである

5. マインドとしての〈やさしい日本語〉

- 「**バリアフリー**」は誰のため
- バリアフリー: 全ての人々が社会に参加できるための手段 (あべ2015)
- →「バリアフリー」は「マイノリティであるだれか」のためのものではなく、「いつかマイノリティになるかもしれない私」のために必要なものである
- →「**情けは人のためならず**」の本来の意味(情けは他人のためのものではなく、自分自身のためのものである)
- →〈やさしい日本語〉の理念を体現

6. おわりに

- **だれでもできるジャンケン(あべ2015)**
- 「ジャンケン」をするときに、「健常者」と同じように、グー、チョキ、パーが出せない人がいた場合にどうするか
- →その人を排除する..... ×
- →他の方策を検討する
- →グー>チョキ>パー>グーという関係(機能)を満たす記号を使えばよい
- 「障害者」を自分たちとは違うと見るのではなく、「障害者」の問題を自分の問題として考えること、これも、「相手の立場から考える」(「**お互いさまの気持ち**」)ことの実践例

参考文献(残りは配付資料参照)

- あべやすし(2015)『ことばのバリアフリー』生活書院
- 庵 功雄(2016)『やさしい日本語—多文化共生社会へ』岩波新書
- 庵 功雄・イ・ヨンスク・森篤嗣編(2013)『「やさしい日本語」は何を目指すか』ココ出版
- 岩田一成(2010)「言語サービスにおける英語志向」『社会言語科学』13-1
- 土岐 哲(1994)「聞き手の国際化」『日本語学』13-13
- バトラー・後藤裕子(2011)『学習言語とは何か—教科学習に必要な言語能力』三省堂
- Iori, Isao (2016) "The enterprise of *Yasashii Nihongo*: For a sustainable multicultural society", 『人文・自然研究』10、一橋大学

ご清聴ありがとうございました